



議長となって1年 コロナ対策に全力

この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された方とご家族、関係者の皆様にお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々に心よりご冥福をお祈りいたします。そして、日夜、治療と感染拡大防止に尽力されている多くの皆様に敬意と感謝を申し上げます。また、全国各地で発生した豪雨災害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

すべてを一変させた新型コロナウイルス。区議会議長として対応に全力!

5月12日に令和2年第一回臨時会、そして、6月24日から7月3日にかけて第二回定例会が開催されました。新型コロナウイルスにより、心身の健康、日々の生活や事業に大きな影響を受けている区民・区内事業者の皆様に向けた、特別定額給付金の支給や港区の独自支援策を裏付けるための補正予算案を審議、成立させました。

自らがリードして 連絡会議を立ち上げ、連携態勢をつくる。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、私たちを取り巻く世界は一変しました。学校の一斉休校や緊急事態宣言の発出など、これまで経験のしたことのない事態が続く、未知の感染症に対する不安が高まりました。区議会としても前例のない事態に直面し、区民生活への影響が日に日に大きくなる中で、議会に与えられた役割を果たすための最善の対応を模索し、それは今も続いています。

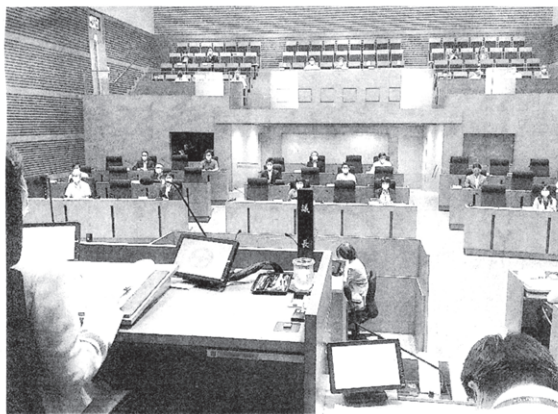


第一回定例会での令和二年度予算案審議においては、時間短縮を図りかつ審議内容を維持するため、書面での質疑も取り入れ、コロナ対応にあたる行政職員の議会対応への負担軽減を図りました。

裏面に続く

二島とよじの記事、掲載!

朝日新聞_令和2年7月10日号



町田市議会では、2階の傍聴席も使い、前後左右1席ずつ空けた「市松模様」での着席となった=6月11日の定例会

議会編上

新型コロナウイルスが広がり始めてから、行政はその対応に多忙を極めた。一方で、議会はどう対応したのか。首長の運営を監視する役割として機能できたのか。都内自治体の議会を検証する。

港区は4月20日、約37億 施などを盛り込んだ。都内の補正予算を専決処分し 区市では先んじての対応とたど発表した。中小企業向 だったが、背景に、議会側 け特別融資の拡充のほか、 の異例の配慮があった。 実、緊急事態宣言が出

検証 新型コロナ

た同月7日の時点で、緊急の案件については原則、区長専決を認めることと早々と決めていたのだ。「専決でどうぞ」とフリーハンドを与えるのが議会として正しいのか、かなり悩んだ。二島豊司議長は振り返る。 コロナへの危機感が一気に高まったのは、3月初めに高まったのは、3月初めの全国一斉休校だった。正副議長と議会運営委員長、会派代表の10人で連絡会議を立ち上げた。34人いる議員個々が所管部署に問い合わせることを自粛、窓口を一本化することで、行政側にコロナ対応に専念してもらうためだった。 宣言時に当面の間の本会議と委員会を開かないと決め、専決容認にも踏み込んだ。連絡会議で「行政と議会、議員間で意思疎通できている前提だった」と二島議長は明かした。

